

ラグビーライ トライ



ボールを抱えて走る合同A(黒いユニホーム)の選手ら
=9月27日、大阪府八尾市の八尾高校グラウンド

イングランドで開催中のラグビー・ワールドカップ(W杯)。1次リーグ初戦で強豪・南アフリカを破った日本代表は3日午後10時半からモアとの第3戦に臨む。注目が集まる一方で、実は国内の競技人口は減り続けていた。日本で開催される次回W杯まで、あと4年。追い風に乗って、ラグビーライ トライを関係者は期待する。

競技人口の減少深刻

大阪府八尾市で9月27日、高校ラグビーの聖地「花園」への出場をかけた全国高校ラグビーリーグ大会府予選の試合が行われていた。片方の選手のユニホームには校名がない。チーム名は「合同A」。部員不足に悩む府北部の9校が6月に結成した混成チームだ。

履正社高校(豊中市)の部員は1人。熊沢亮哉君(29)らを輩出した府立島本高校(島本町)も、8年前から合同チームで出場。顧問の坂井雄亮教諭(31)は勧け、25人がそろう週末に試合形式の練習をしてこの日に臨んだ。試合は0対74で敗れた。熊沢君は「つらかったが、どんな環境でもラグビーを続けたかった。悔いはない」と振り返る。

前身の大会も含め全国高校ラグビーリーグ大会で最多18回の優勝を誇る大阪でも、競技人口減少は深刻だ。1990年は172チームが予選に参加したが、今年は54。合同チームは13に及ぶ。日本代表の堀江翔太選手

そんな中、一躍メディアで取り上げられるようになつた日本代表。五郎丸歩選手(29)がキック前に祈るように手を合わせるポーズをまねる生徒も現れた。坂井義伸理事長(65)は「ラグビーはやれば楽しい。身近に触れる機会を作っていくことが大切」と話した。

明るい兆しもある。タツ(山中由睦)は「企業チームによる全国大会を2003年に「トップリーグ」に発展させ、開催期間を延ばして露出を図つた。関西ラグビーリーグは協会の坂田好弘副会長(73)は「日本サッカー協会は地域密着で子どもたちを育成するなど長期計画を立てて活動してきた。その間うち

タグラグビーを授業に採り入れる小学校が増加。近畿や東海地方では、中学生以下が主な対象の地域のラグビースクールで競技者数が15年ぶりに増えている。関西ラグビーリーグの高岡義伸理事長(65)は「ラグビーはやれば楽しい。身近に触れる機会を作っていくことが大切」と話した。

マ「スクール・ウォーズ」が放送されていた。転機は93年。発足したばかりのJリーグが注目を集め一方で、ラグビーの試合中継が減少。これに伴い競技人口も減り、14年度は約10万6千人とピーク時の6割余りだ。日本ラグビーリーグに発展させ、開催期間を延ばして露出を図つた。

次回のW杯開催を控え、企業チームによる全国大会でこ入れは始まっている。言ふ。

クルの代わりにベルトについた「タグ(札)」を奪うタグラグビーを授業に採り入れる小学校が増加。近畿や東海地方では、中学生以下が主な対象の地域のラグビースクールで競技者数が15年ぶりに増えている。

無断複製転載を禁じます。

「やれば楽しい」PR

日本ラグビーリーグによると、競技人口のピークは94年度の約16万7千人。この部をモデルにした人気ドラマ「やれば楽しい」PR

10年前には伏見工業高校(京都市伏見区)ラグビー

登録している選手数

今夜サモア戦

▼7面=ボール動かす、11面=貫く日本流

